



TITLE:

哀辞

AUTHOR(S):

京都大学経済学会

CITATION:

京都大学経済学会. 哀辞. 経済論叢 2000, 166(4)

ISSUE DATE:

2000-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/45373>

RIGHT:

經濟論叢

第 166 卷 第 4 号

哀 辞

故田中真晴名誉教授遺影および略歴

カール・クニースの経済学講義……………八 木 紀一郎 1

ごみ処理広域化に関する政策史分析（1）……………八 木 信 一 27

1949年ドイツ・マルク切り下げ問題をめぐる

米仏関係……………河 崎 信 樹 43

ヴェルテンベルクにおける編物産業内の

社会的分業の展開（2）……………森 良 次 59

日中戦争期におけるアメリカの対華支援（1）…大 石 恵 73

追 憶 文

田中真晴先生の業績を偲ぶ……………松 嶋 敦 茂 86
梅 澤 直 樹

弔辞……………田 中 秀 夫 91

平成12年10月

京都大學經濟學會

哀 辞

2000年6月21日 本学名誉教授 田中真晴先生が逝去されました享年75歳 先生は1925年4月5日に京都市にお生まれになり 15年戦争の時代に中学から第三高等学校をへて京都大学経済学部へと進まりました 戦時中の軍隊生活も短時期ながら経験された先生は 終戦直前に繰り上げ卒業となり 大学院に進学され 特別研究生として経済思想史の研究を着手されております 1950年に助手に採用された先生は講師 助教授 教授として24年間経済学部のために貢献されました 1967年に刊行された『ロシア経済思想史の研究』は誉れ高い名著として 今も専門家が紐解く著作であります 原論教授として6年余り在職された先生は 紛争の渦中 甲南大学へ移られました その後の先生は経済学史学会の幹事として また代表幹事として 活動の強固な足場を学会に築かれるとともに 18世紀から20世紀にわたる自由主義経済思想の展開を深く究めるべく 旺盛な学問活動を展開されました その営為は晩年にはスコラ学派の経済思想の研究にまで拡がっていました

京都大学で評議員 甲南大学では学部長を2期つとめられた先生は甲南大学でも大きな学問的影響力を同僚に与えられましたが また京都に拠点を置く方法論研究会の主催者として 多くの若い研究者と交流され その成果は編著『自由主義経済思想の比較研究』に結実しました 先生はその後 龍谷大学においても教鞭を執られ 教育歴は実に45年に及びました いつも真剣で学究的姿勢を崩されなかった先生は 学問思想においても行動においても誠実でありました 比較的寡作な先生の珠玉というべき論文とエッセイは さいわいにして 遺著『ウェーバー研究の諸論点』『一経済学史家の回想』に盛り込まれ 近く多くの方に愛読されるものと期待されます

京都大学経済学会は 先生の生前における経済学研究と教育にたいするご貢献に感謝するとともに ここに在りし日の先生の御遺影を掲げて 心から哀悼の意を表するものです

平成12年9月

京都大学経済学会